

令和5年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立さつき幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

<評価方法>

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり<A…そう思う(4点)/B…どちらかといえばそう思う(3点)/C…どちらかといえばそう思わない(2点)/D…そう思わない(1点)>
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.8 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「明るく元気な子」に近づいてきている。	
心保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.7 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会(参観日等)を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.9 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人権を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.8 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくて説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
	30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える(遊び用具や掃除用具の片付け等)ことを促す工夫をしている。	
	31 時間や提出物の期限を守っている。	
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
援助導に計つ画、いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.8 /4
	34 子ども一人一人の実態(発達の状況や興味の対象等)を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価(評価項目の達成及び取組状況)
4~3.1	A…十分達成されている
3~2.1	B…達成されている
2~1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1~0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.8 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

・総合評価でA評価をいただき嬉しく思います。昨年度に引き続き重点目標を「いきいきと遊びを楽しむ子」とし、心が動くような感動体験を手立てに「やりたい」が発揮できる子を育てることに力を入れて保育にあたりました。〔保護者への対応について〕の点数が昨年より高くなり、子供たちだけでなく、保護者の皆様にも寄り添いながら丁寧に保育を進めてきたことを、保護者の皆様ご理解してくださっていることが感じ取れました。引き続き、教師は幼児理解に努め一人一人に合った丁寧な保育を心掛け、園と家庭が連携して子供の成長を支えられるように努めたいと思います。

・本年度努力した点、改善した点

・今年度は安全面を見直し、不審者対策として保護者様に送迎時の来園者カードの提示と、保育時間中に出入りする際のインターホン使用に御協力いただきました。雨天の登降園は雨合羽を着用し、大雨・洪水を想定して雨合羽を着用しての避難訓練も行いました。安全対策についての点数が高くなり、園での取り組みが理解していただけたと嬉しく思います。
・今年度も毎月、その月の保育や子供の姿を振り返り、翌月の保育に活かすための「クラス会議」「職員全体会議」を継続しました。園児が感動した場面を写真と共にコメントを付けてドキュメンテーションを作成し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の説明も加え、保護者の皆様の目に留まるところに掲示しました。成長の過程が見てわかりやすい掲示の仕方も工夫し、感動体験を通し園児が成長していく姿が保護者の皆様に伝わるように努めました。
・園の様子を地域の方々にも知ってもらえるよう、保護者向けに発行している園長だより「さつきっこ」を、大村公民館、子育てサポートルーム、親子ふれあい広場にも掲示しました。

・苦心した点、反省すべき点

・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、夏祭りやバザーなどのPTA行事や園行事が以前のように実施できることになったものの、園児数減少に伴い、PTA会員数も減少し、行事を行うことの難しさを感じました。行事の内容ややり方などを工夫して、もっと保護者同士が親しく交流できる場にしていければよかったと反省しています。
・今年度は未就園児の園庭開放への参加者が少なく、残念でした。園庭や園舎の設備、環境に恵まれ、豊かな実体験ができ、一人一人に寄り添った保育をしている園の良さを、もっと広く周知する方法を考えたいと思います。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

・今年度は、心が動くような感動体験を手立てとして意識しながら保育を展開してきました。年中児は身の回りのことが自分でできるようになり、好きな遊びを見つけて遊べるようになりました。年長児は友達と一緒に考えながら遊びを進めて楽しめるようになりました。今年度の研修テーマである「やりたい！」思いを発揮することは、その子なりにできていたと思われれます。来年度はもっと友達と一緒に遊びを楽しんでほしいと願い、重点目標を「友達と関わりながら遊びを楽しむ子」とし、引き続き心が動くような感動体験を大切にしながら、子供が興味をもって遊び出し、その楽しい気持ちをつい友達に伝えたいくなるような環境作りに努めたいと思います。教師も子供の遊びに共感し、人的環境として子供同士をつなげるような言葉かけを大切にすよう、研鑽に努めます。